



資料3

科学技術・学術審議会
学術分科会
人文学・社会科学特別委員会
(第22回)
令和6年3月5日

国際ネットワーク構築の過程と 国際発信の重要性

2024/03/05

法政大学能楽研究所

山中玲子

* 本日のお話の前提（おことわり）

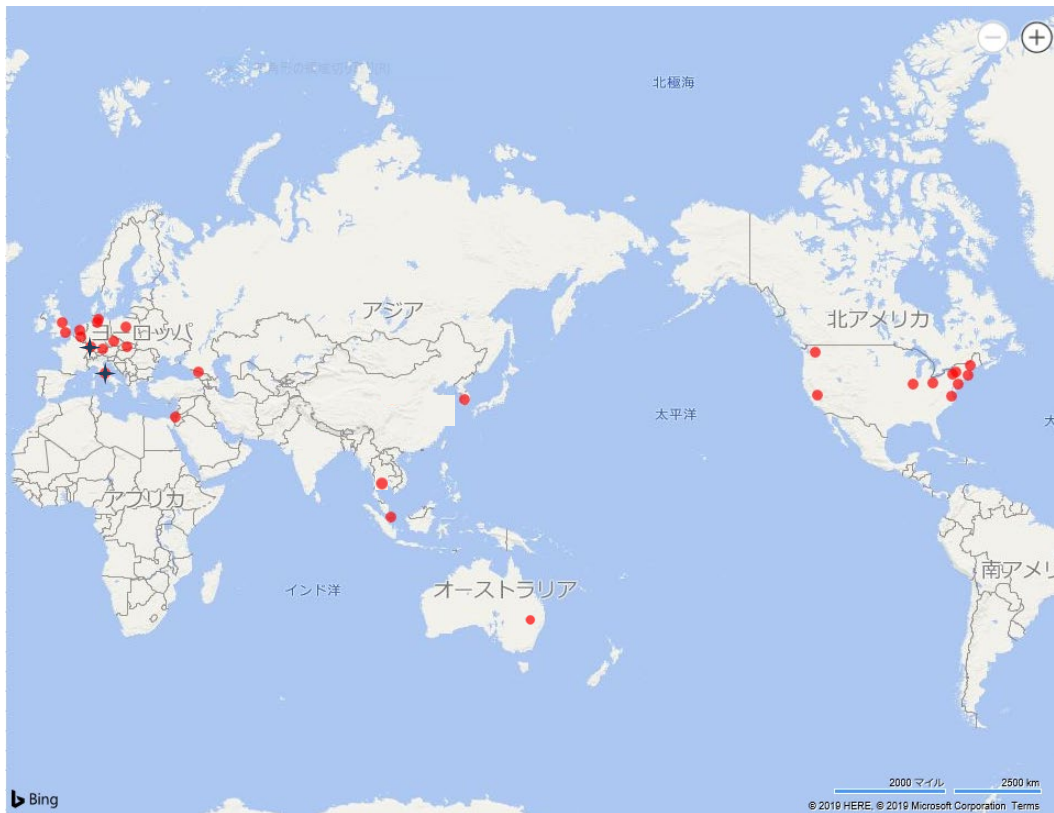
* 国際化をめざした動機

* 国際化の過程

* 国際拠点があることの意義
（国際化して良かったこと）

- 1) 能楽研究は日本が中心になる分野であること
- 2) 能楽研究所が法政大学にあること

2006年頃



オーストラリア ロイヤル・タイラー氏(翻訳家)

- コーネル大学
- ワシントン大学
- プリンストン大学
- コロンビア大学
- ピッツバーグ大学
- オハイオ州立大学
- カリフォルニア大学
アーヴァイン校
- トリア大学
- ベネチア大学
- シンガポール国立大学
- チュラロンコン大学
- テルアビブ大学

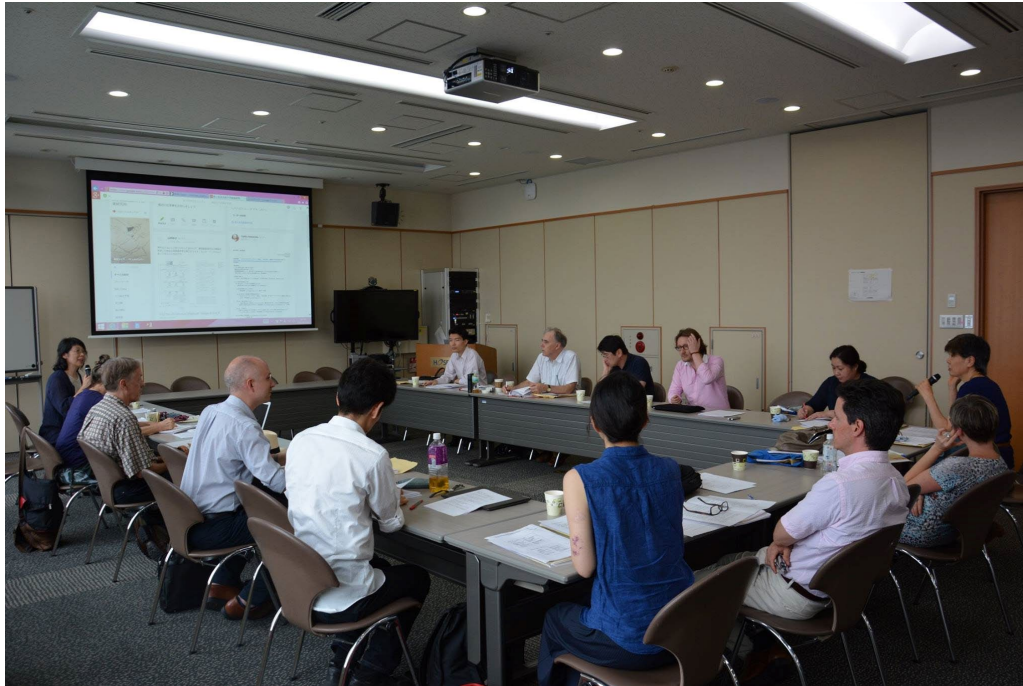
国際化の動機と目標

- 1) 日本が研究の中心であることの弊害
 - 世界の中の「郷土史家」
- 2) 対等な立場での議論が必要
 - 正しい情報の発信
 - 共通の研究基盤の構築
- 3) 喧嘩のできる人間関係を作る
 - 簡単には壊れない関係

A Companion to Nō and Kyōgen Theatre

(2013~2023年)

2024年 Brill 社より刊行予定



- 全900頁(を越えそう. 文字原稿だけでA4 890頁)
- 編集者・著者 38名 + α
- 日本:15名 米国:14名 ドイツ:5名
- その他:4名(イタリア・チェコ・シンガポール・オーストラリア)
- Japanese と non-Japanese が組んで執筆・編集

共同研究をやってみての実感

- * 「郷土史家」であっても、知識量ではこちらが圧倒的
- * 日本文学や芸能史の研究者は日本国内の論文の書き方しか知らない
→ 英語での論文の書き方を指導されながら進む
- * 何が必要か何が不要かという判断についての対立が多数
- * 純粹に研究上の問題だけではない軋轢・齟齬
 - 若い人たちは名を売りたい
 - 出版が現実的になってから協力的になる人
 - 当然ながらさまざまなキャラクター
 - 当然ながらそれぞれに仕事や個人の生活や寿命がある

Style Questions (A4 22頁分) から

a. Include place names (only the first) for all publishers, even if the place name is Tokyo. I am assuming that when the place of a Japanese publisher is not mentioned, it is Tokyo. **We need to be mindful that readers are not all as familiar with Japanese publishers and therefore would suggest inserting “Tokyo.”**

Figure 2.2 Drawings of the Performers in Okina (r to l): Senzai, Okina, and Sanbasō. From the scroll [handscroll?] Illustrated Scroll of Tenpō Subscription Nō [Insert your preferred translation] (Tenpō kanjin nō zukan), 1831 (Tenpō 2). Kōzan Bunko, Hōsei University. **Also, it would be helpful for readers to have the materials and size, if that's possible.**

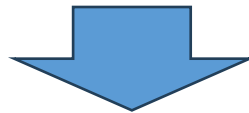
I am for place names NOT having macrons, but I know that Eike feels the opposite. The point is that they don't have macrons in the English dictionary or on maps. (MB)

I always find it hard to explain to my students, that I want them to use macrons and then add something like: although in this publication I did not use any either. In my opinion **it's easier to ignore macrons than to imagine/remember them. And I find it disturbing when the pronunciation gets distorted.** But I will follow the general consent (EG)

この書き方では世界には通じないと言われた例

古い伝書類では、「盤渉は水の調子・夜の調子」「双調は春の調子」「平調は秋の調子」など、それぞれの調子が陰陽五行説と組み合わせて説明される。

Old transmission documents explain a correlation between the musical modes and the yin-yang gogyō five elements theory, stating such things as “*banshikichō* is the mode of water, the mode of night,” or “*sōjō* is the mode of spring,” or “*hyōjō* is the mode of autumn.”



Old transmission documents identify the correlation between the musical scales and the five agents theory (*in'yō gogyō*), a five-fold conceptual view of cosmic correspondences between the basic natural elements (fire, water, wood, metal, earth) and the seasons, directions, colors, and so forth. In this scheme, *banshiki chō* is the scale of water and night, *sōjō chō* of spring, and *hyōjō chō* of autumn.

The five agent correspondences are mentioned, for instance, in the 1537 *Fue no ki (Flute Record)* and 1548 *Sōtekishō (Flute Pieces)*. See Yamanaka 1985: 31–44.



2016 エール・NUS大学



2016・2017 大和スコラー(大和日英基金)



2013 ロンドン大学ロイヤルホロウェイ校





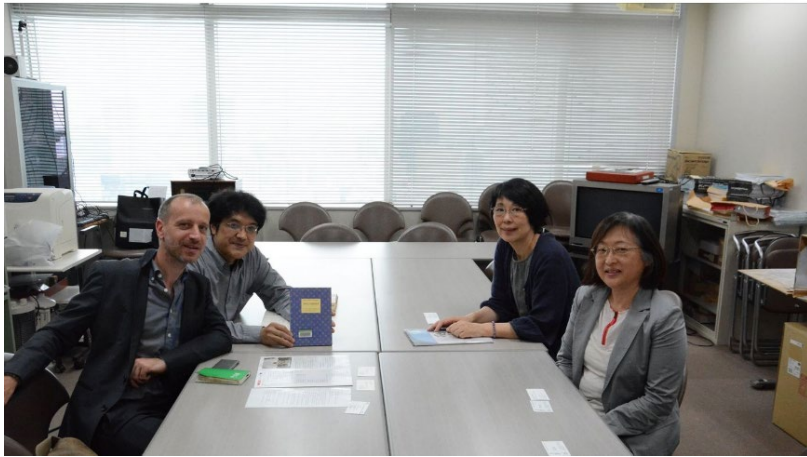
法政大学能楽研究所

作成者: 山中 玲子 · 2018年5月31日 ·

...

パリ第7大学でギリシア語・ラテン語と古典演劇を教えておいででの、西洋古典学の研究者、Maxime Pierre先生と、やはりギリシア語・ラテン語と比較文学がご専門で信州大学教授の野津寛先生が、能研においでになりました。

ピエール先生は、能の演出技法をギリシア悲劇やローマの演劇に応用したい、というお考えでした。パリで観世流の能の実技も勉強されたとのこと。
野津先生の通訳のおかげで、能研の宮本・山中も、自由にお話することができました。ちょうど閲覧にいらしていた、明治大学の伊藤真紀先生（演劇学）にも加わっていただいて、いろいろと面白いお話ができました。... **さらに表示**





法政大学能楽研究所特別企画

笑いは国境を越える

茂山家×なごみ狂言会チェコ 東京公演

2016年7月27日(水) 15:00~17:00 (開場 14:30)

矢来能楽堂

東京メトロ東西線「神楽坂」駅2番(矢来口)より徒歩2分
都営地下鉄大江戸線「牛込神楽坂」駅A1出口より徒歩5分

入場無料

【プログラム】

解説 ヒーブル・オンジェイ (なごみ狂言会チェコ主宰)

狂言 濯ぎ川 夫: ドスターレク・イゴル、妻: 茂山宗彦、姑: ホヴァネツ・ミハル

狂言 呼声 太郎冠者: パヴチーク・トマーシュ、次郎冠者: シュメレク・カレル

主: ヒーブル・オンジェイ

狂言 蝸牛 山伏: 茂山宗彦、主: 茂山七五三、太郎冠者: 茂山逸平

【演者紹介】

茂山家…江戸時代から続く京都の大藏流狂言の名家。今回出演する茂山七五三は人間国宝四世千作の次男。

息子の宗彦・逸平とともに多彩な演劇活動を展開。

なごみ狂言チェコ…チェコ政府公認の狂言上演団体。2000年設立。チェコ語による狂言をヨーロッパ各地及び日本で上演。茂山七五三・宗彦に師事。第26回催花賞受賞。

観賞ご希望の方は1名につき往復ハガキ1枚(複数名の応募は無効)、返信面に氏名・住所を明記の上、法政大学能楽研究所(〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1)までお申込みください。

締切: 7月15日(金)

定員に達し次第、申込を締め切らせていただきます。

主催: 野上記念法政大学能楽研究所 TEL 03(3264)9815 協力: 日本チェコ友好協会

Noh Reimagined

2018

SUBLIME ILLUSIONS

29-30 JUN 2018 / KINGS PLACE, LONDON

Images: Shingji Aoki / Takashi Inai - Flyer: corneumindscope.com



Unlocking the 650-year-old secrets of Noh in a time-travel encounter with contemporary arts and science

Featuring master Noh performers from Japan including Yukihiro Isso (*nohki*), Masaki Umano (*shite*, main actor), Jiichi Asami (*shite*, main actor), Kyosuke Tani (*tsuzumi*, shoulder drum), Mitsuhiro Kakihara (*otsuzumi*, hip drum) and Kiyoshi Yoda (*tsuzumi*, drum) along with Clod Ensemble, David Toop, Wiebke Leister, Lina Phenytypica, Semir Zeki and Atsushi Iriki.



JAPAN FOUNDATION



Curated and produced by mu:arts and International Noh Project Committee, Tokyo in partnership with Kings Place, Japan Foundation and the Noh Theatre Research Institute, Hosei University.

Booking: kingsplace.com

Noh

Phenotypica

Neus Torres Tamarit & Ben Murray

Hall One 6pm

OPENING TALK

**Professor Semir Zeki,
Professor Atsushi Iriki
& Professor Reiko Yamanaka**

Exploring the links between neuroscience, the arts and Japanese Noh theatre



**Noh Movement Workshop:
Acting from Inside**

Led by Masaki Umano, the *shite* actor of the Kanze School

St Pancras Room 2pm

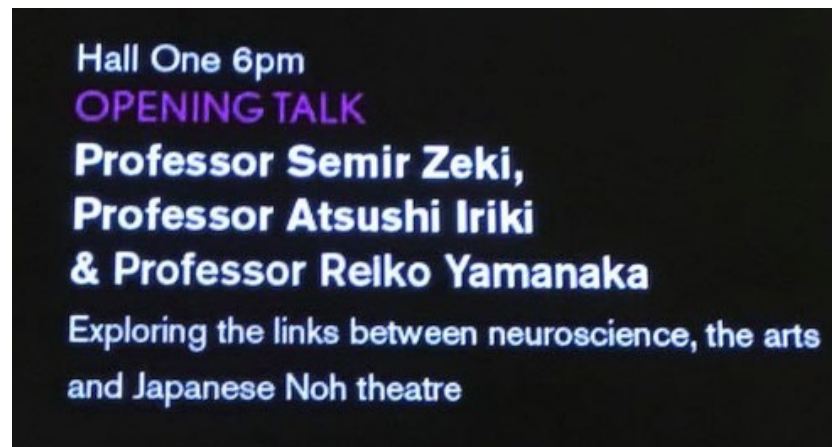
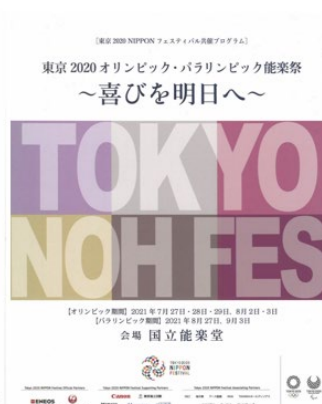
SEMINAR

**Noh Mask, Noh Movement:
Illusory Devices**

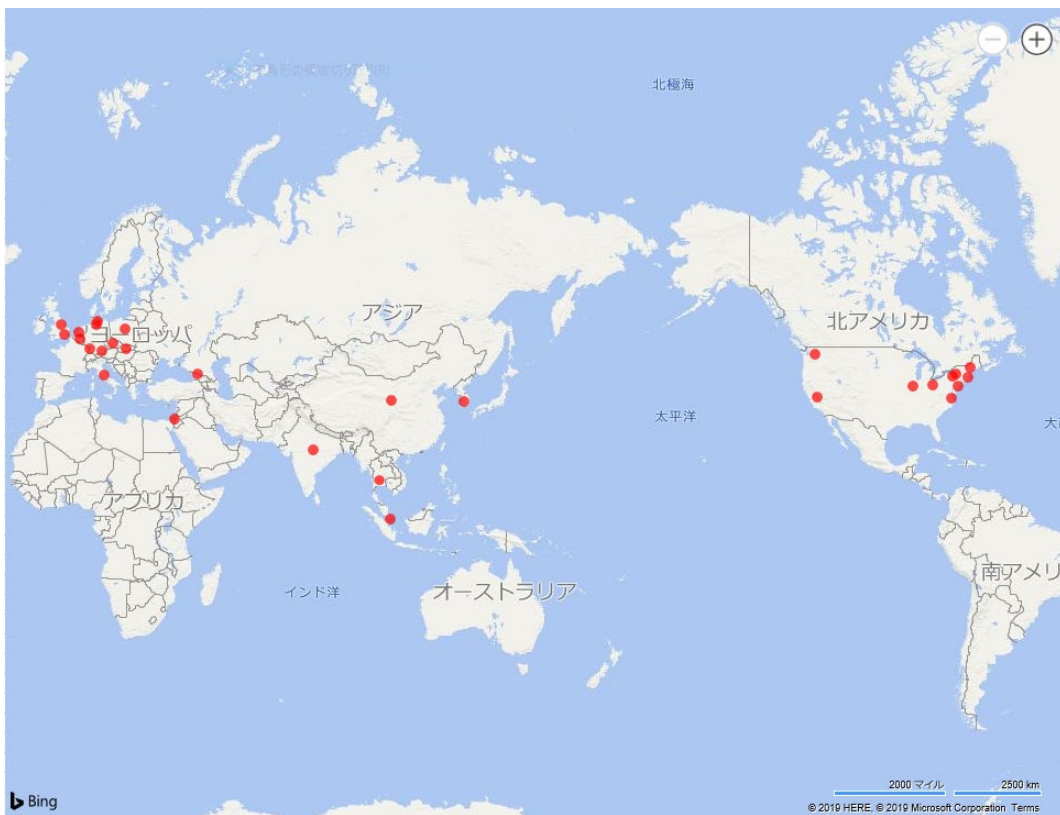
Professor Reiko Yamanaka and Professor Keizo Miyamoto unveil the secrets of Noh movement through narrative and scientific analyses

国際拠点があることの意義

- キャリアパスの重要な通過点にも
- 新しい共同研究や仕事上の協力
- Non-Japanese同士が繋がる場所
- 国際化が学際化に繋がる可能性



スタンフォード大学(研究交流・共同研究)
ハーバード大学(留学生受入れ)
オクスフォード大学 スtrasブール大学 (研究交流)
フランス極東研究所(研究交流)
Indian Institute of Management(研究への協力)



チェコ(狂言演者) キプロス(作曲家)
ドイツ(ミュンヘン室内劇場ドラマトルク)
ベルギー(バロック演劇演出家) ポーランド(能作者)
その他、海外の学生・大学院生の訪問・問い合わせ多数

- ・ ワシントン大学
- ・ シンガポール国立大学
- ・ プリンストン大学
- ・ コロンビア大学
- ・ カリフォルニア大学アーヴァイン校
- ・ オハイオ州立大学
- ・ ミシガン大学
- ・ ピッツバーグ大学
- ・ ハンブルク大学
- ・ パリ第7大学
- ・ ロンドン大学ロイヤルホロウェイ校
- ・ 翰林大学
- ・ チュラロンコン大学
- ・ マサリク大学(チェコ)
- ・ ベイツ大学(USA)
- ・ 北京外国語大学
- ・ ラーチャパット大学(タイ)
- ・ トリア大学
- ・ ベネチア大学
- ・ コーネル大学
- ・ テルアビブ大学

まとめ(10年間やってみた感想)

- 人のネットワークが重要 (組織間の協定よりも有効か)
- こちらから出ていけなくても優秀な院生・若手を積極的に受け入れることで評価してもらえる
- 英語での発信はやはり重要 (背伸びの結果誤解も生む)